

INTERVIEW

ハウスリフォーマー
育成学院
(長崎県西彼杵郡)

キッチン、トイレ、洗面工事ができる「多能工」育成 「高粗利体質の業者を増やしたい」

トイレ、洗面所、キッチンまでマルチに施工できる多能工「ハウスリフォーマー」。今春からその育成に乗り出しているのが、ハウスリフォーマー育成学院（長崎県西彼杵郡）だ。自社職人を持つことが重要と話す中田竜学長に、学院の特徴と目指す未来について聞いた。



中田 竜学長

12日間80時間の研修

——学院では何が学べて、卒業後はどうなるのでしょうか。

「単なる多能工ではなく、トイレ、洗面所、キッチンのリフォームを、それぞれ1日で完了できる職人を育てるカリキュラムによって高粗利体質のリフォーマー業者を増やすのが私たちのビジョンです。具体的には、12日間合計80時間のプログラムを組んでいます。この日はトイレの組み立て、この日は洗面台取り付けなど、部位ごとに1日集中してトレーニングして

います。12日間の研修終了が近づいた時点で、実際に1dayリフォームを1人でやってみるテストも実施。入学時にはまったくの初心者でも、卒業後はその日から現場でリフォーム工事できるスキルが身に付いています。

——育成機関としての特長はどこでしょうか。

「徹底的に「現場」を再現しているところです。「教室と実際のリフォーム現場が違い過ぎるので、現場に出ると戸惑う」という声をよく聞きます。広い教室なら、機器や部

品をフロアに広げて組み立てることができませんが、リフォームの現場は一般の民家なので、トイレの狭い空間でしか作業できない、といったことが普通です。

そのため学院の研修所は、民家のスペースをそのまま再現したものにしています。それが最大の特長ですね。

——まさに現場そのものの空間で研修できるというわけですね。

「技術だけでなく、接客姿勢の学びにも力を入れています。全国からやってくる研修生は、期間中、

1晩だけ研修所に泊まります。なぜか。リフォーム中のお宅で、施主がどんな気持ちで寝起きしているかを知るためです。作業中の雑然とした場所での暮らしを1日体験するだけで、お客様の気持ちが変わり、接客への心構えが違ってきます。

清掃やあいさつなどの職人の基本マナーも、研修を通じて学べるようになっていきます。リフォーム関連クレームの9割が人的なもの。つまり、職人の接客の悪さが原因となつていきます。これを解消するのも、優良リフォーム店を増やすカギになるとみています。

——トイレ、洗面所、キッチンのリフォームスキルに絞っているのは、何か理由があるのでしょうか。

「私たちが注目しているのは「小規模な水回りリフォーム」です。事実、100万円未満の工事がリフォームの5割を占めており、小規模工事ほど件数が多い傾向にあります。ところが、この分野の需要が増えるのは分かっているのに、職人不足から対応できない、外注すれば段取りが大変なので手を出せない、といった中小リフォーム店が多いのではないのでしょうか。

「だからこそ、トイレ、洗面所、キッチンの水回り3点を1人でできる多



▲設備取り付けに加えて、壁紙の張り替えも学ぶ



▲部屋別に大手メーカー3社の水回りを繰り返し組み立て

能工を育てることが重要なんです。こうした職人が1社に1人いるだけで、大量に発生する小規模リフォームに応えながら、粗利益率を上げていきます。一方で、専門技術が必要なお風呂工事などはあえて外注するという手法をとれば、余計な手間を回避しながら高利益体質の会社へと変わっていきます。

——実際にどのくらい粗利が高まるのでしょうか。

「トイレリフォームを例に挙げると、外注による分離発注の粗利が3万円9000円なのに対し、自社職人によるリフォームの粗利は8万9400円。実に2倍以上です。これから小規模リフォームが発生する家は、何十年も前の住宅とは違い、躯体もしっかりしているし断熱材も入っています。ですから、トイレの取り換えとクロス張りの替えといった簡易なリフォームだけで済みます。今後は、大改修を手掛けられる高いスキルより、簡易リフォームの基本スキルを身に付けている自社職人を持つことが、会社にとって重要になるの



▲ベテラン職人が多能工を育成



▲民家を再現したリアルな空間で作業を行う

すでに60人を超える研修生が卒業し、現場で活躍しています。リフォーム店だけでなく、異業種からも問い合わせが寄せられるなど、多能工ニーズはもっと多方面に広がるとみています。